

ミャンマー（ビルマ）難民キャンプで支援を行う NGO による活動報告
「世界の難民たちのことを考えてみませんか」
 ～10年目を迎える6月20日は世界難民の日～

教育を通じた自立支援を行っている社団法人シャンティ国際ボランティア会(会長 若林恭英/所在地 東京都新宿区/URL <http://www.sva.or.jp> 以下SVA)は、2010年6月18日(金)、19日(土)の2日間、SVA東京事務所でミャンマー(ビルマ)難民事業の写真やキャンプで使われている品の展示、活動報告を行います。当日はカレン族製作のクラフト販売を予定しています。

・6月18日(金) 14:00～20:00 (活動報告 17:30～18:30)

・6月19日(土) 11:00～17:00 (活動報告 15:30～16:30)

※日本在住のカレン難民の方にお話していただきます。

地球上に4200万人

2000年の国連総会で、毎年6月20日を「世界難民の日」とする決議がされました。数多くの難民が感じている孤独や絶望感に思いをはせ、私たち自身に何ができるのかを自問する日としています。家や故郷を追われ困難に立ち向かっている人が、地球上に4200万以上いると言われています。(UNHCR2009年次報告書『グローバル・トレンド』参照)タイとミャンマー(ビルマ)国境にある難民キャンプには約14万人の人々が生活しています。10年以上現場で活動しているSVAが、キャンプの現状をお伝えします。



「知ることが第一歩」

難民問題を解決するために、現在一番有効と考えられる解決策は海外に移住する「第三国定住プログラム」です。このプログラムは2004年より始まり、現在までに約8万人の人々が第三国に移動しました。SVAが図書館活動をしているキャンプより、今年、日本政府はアジアで初めて受け入れを開始します。日常の生活の中では触れる機会がほとんどない難民の人たちに思いをはせる機会にしてください。

■ミャンマー(ビルマ)難民の背景

1984年以来、ミャンマー(ビルマ)東部のカレン州を中心に、軍事政権の下における村落への攻撃、人権侵害などを逃れて多くの難民がタイに渡りました。四半世紀を経た現在も、難民帰還の兆しは見えない状況にあります。



(C) 川畑嘉文

■イベント概要■

日時 2010年6月18日(金) 14:00～20:00 (活動報告 17:30～18:30)

6月19日(土) 11:00～17:00 (活動報告 15:30～16:30)

※日本在住のカレン難民の方にお話していただきます。

場所 SVA東京事務所 地下1階(東京都新宿区大京町31 慈母会館)

アクセス 最寄駅: JR総武線 千駄ヶ谷駅、東京メトロ大江戸線 国立競技場駅

URL <http://www.sva.or.jp/sva/map/>

入場料 無料。ただし古本を1冊以上お持ちください。CD, DVD, ゲームソフトも大歓迎です。

(リサイクル・ブック・エイドを通じて、アジアの子どもたちの教育支援に充てさせていただきます。)

*ご予約、ご連絡は不要です。お気軽にお越しください。

■当りリリースに関するお問い合わせ

社団法人シャンティ国際ボランティア会(SVA) 担当: 鎌倉(かまくら)・神崎(かんだき)

所在地: 東京都新宿区大京町31 慈母会館2F 電話 03-6457-4585 FAX 03-5360-1220

ホームページ: www.sva.or.jp

メールアドレス: pr@sva.or.jp